



衣川台住民の皆さま、いつもなまず通信をご覧いただきありがとうございます。

今年に入ってから9月初めまでのわずか8か月余りで、**全国のおよそ22都道府県が震度5弱以上の揺れを経験しています。これは全国のほぼ半数にあたります。私たちの自治会では震度5弱以上を安否確認活動の基準としていますが、この震度は決して「めったに起こらないもの」ではありません。**

今回は、6月の防災訓練を中心にご報告させていただきます。

ご存知ですか！！

琵琶湖西岸断層帯(北部)による地震の30年以内の発生確率が「1～3%」から「**3～14%**」に上がりました。これは、**近畿で地震発生確率が最も高い断層帯です。**

琵琶湖西岸断層帯	マグニチュード	ランク	地震発生確率
北部区間	7.3程度	S*ランク	3%～14%
南部区間	7.4程度	Zランク	ほぼ0%

<S*ランクとは>

今後30年以内の地震発生確率が「3%以上」と評価され、もっとも危険度や切迫度が高い活断層

琵琶湖西岸断層帯は右にあるように高島市から大津市にかけて琵琶湖西岸に延びる断層です。今年、8月28日に政府地震調査委員会が近畿にある内陸活断層地震の今後30年以内の発生確率や規模などの長期評価を公表。

確率が低くても、大きな地震は起こります。その例が7月の熊本地震です。発生確率は「ほぼ0%～6%」でした。あの惨状は、大地震が大切な日常を根底から奪うことを教えています。

日頃の備え、災害時の助け合い(安否確認と共助)が何より大切です。そして住民の皆様には、地域の防災活動を担う自主防災部への積極的な参画・協力を切に願います。

衣川台自主防災部 アドバイザー 田村修二



(政府 地震調査研究推進本部資料による)

特集:第1回防災訓練の振り返り

6月14日に防災訓練をおこないました。例年通りの安否確認訓練に引き続き、防災クイズ大会を実施しました。自主防災部としては、初めての試みでしたが、約70名の方に参加いただき、防災意識や知識の向上につながったのではと喜んでおります。

安否確認訓練

今年度のテーマは、(毎年ほぼ同じですが・・・)次の通り、共助活動をおこなっていただきたいということでした。

共助単位でお互いの安全を確かめましょう！

① 安全確認旗の掲示

② 道路に出て、ご近所の訓練への参加を確認しましょう

残念ながら、全体的に道路に出てこられた方は非常に少なかったようです。私には高齢の家族がおりますが、過去の地震の際に、ご近所の方が安否を尋ねて来てくださいました。実際に被災したときはこのようにお互いに助け合う(共助)ものかもしれませんが、大事な時にためらわずに行動に移せるように訓練時のテーマとして今後も考えていきたいです。
安否確認時の、組長さん、前年度組長さんの参加率は100% で、これは大きな成果でした。

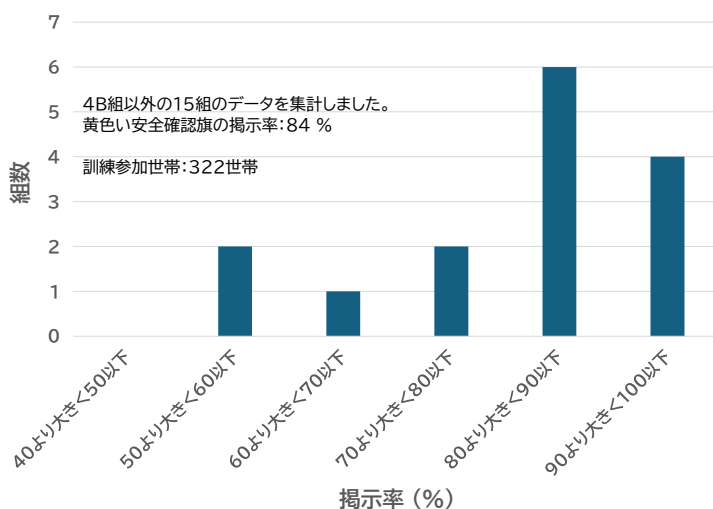
一方、黄色い安全確認旗の掲示率は高い水準を維持しておりました。右下図に示されているように、掲示率が80%以上であった組が10組あり、全体でも84%の世帯が掲示されておりました。

安否確認作業は8:40開始でしたが、その時点では、広報チームのサイレンが聞こえていなかった組が多いと考えられますから、実質的には当日防災訓練があることをスケジューリングしていただいた世帯が多いことを示しています。いつも防災活動へのご協力ありがとうございます。

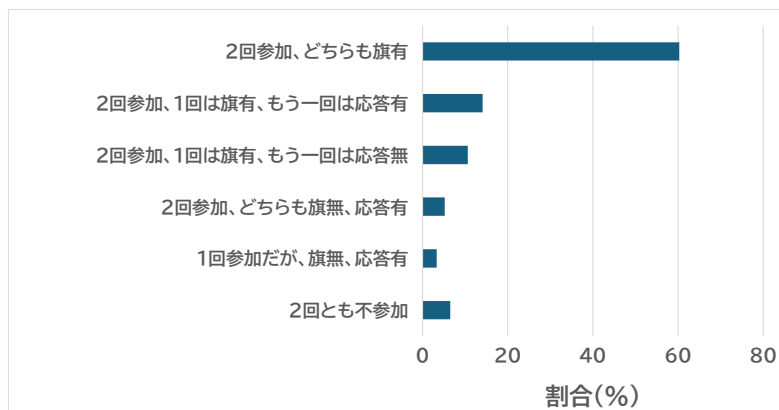
次ページに示した図は、昨年度と今年度の訓練への参加状況をまとめたものです。2回とも安全確認旗を掲示された世帯は全体の60%でした。何らかの理由で、訓練に参加できないことはしかたありませんので、今後は2回とも、(ご在宅で)安全確認旗を掲示されていなかった世帯への呼びかけ等をおこなっていければと考えております。



広報チームの活動



黄色い安全確認旗の掲示率(組数)



2025年度、2026年度の訓練参加状況

もし、黄色い安全確認旗を紛失された方は、黄色系のタオル等、判別がつくものでしたら、とりえず代用お願いいたします。また、購入(120 円)を希望される場合は自主防災部にご連絡お願いします。(組長さんに依頼されてもかまいません。)

防災クイズ大会

安否確認訓練の後、午前 10 時から南自治会館で防災クイズ大会を行いました。「親子いっしょに防災を考えていただく場の提供」、「家族揃っての参加」をうたった結果、今までにない親子連れの参加があった反面、おひとり住まいの方々が参加を控えられたと後で聞いて、案内文の書き方について反省しています。クイズの最中には、お母さんが幼い子供のために問題文にフリガナを書かれていました。クイズ大会終了後に回収したアンケート用紙にも、「問題文にフリガナが欲しかった」という意見が寄せられ、これも反省材料です。

2 組 堀内 敦司事務局長のもとで進められた出題内容は、北消防署から紹介された初級、中級、上級問題それぞれ7問、合計 21 問から選抜しました。〇×クイズですが、「回答の〇、×の数のバランス、1問目の序章に始まって、中休み、そして 12 問目の最終章への盛り上がり」がクイズ大会には欠かせない」という発案で、問題文や出題順が修正されました。この問題文やパワーポイント資料を作成された4A 組の多田 勉さんには、初めから終わりまで本当にお世話になりました。どうも有難うございました。

参加賞の井村屋「チョコえいようかん」は、12 組 酒井自治会副会長による発案の中から決まりました。備蓄保存用の食品で、しかもアレルギー特定原料などは含まれていません。「各家庭では、3日分の食料の備蓄を」と消防署から呼びかけられていますので、ご家庭での備蓄の参考にしてください。この参加賞の有無についてのアンケートでは・・「是非、欲しい」、「別に、無くともよい」という意見が半々に分かれて、意外な結果でした。

また、津原 士郎防災会会長も参加され、その挨拶の中で、「衣川台の安否確認の取組みは他の防災部では見られない緻密な手法で行われています。仰木の里学区内でも実施できるよう、ご協力をお願いします。」との意見が寄せられました。



多数参加くださり、ありがとうございました。

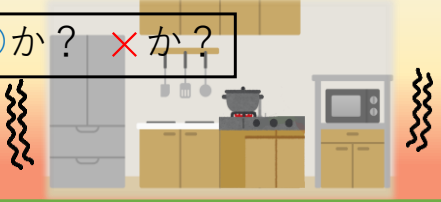
特に正答率の低かった問題の当日資料を紹介します(フリガナがなくて、ごめんなさい)。

Q1 の正答率は 44%、自主防災部関係者でも 56%でした。

Q 1

地震が発生した時には、火を止める事を優先する。

○か？ ×か？



Q 1 “答” → ×

まずは自分の身を守る為に机の下にもぐって、頭を守ったりしましょう。無理に火を消しに行くのは危険です。ある程度収まるまで待ちましょう。



7組 田村 修二アドバイザーによる講演「強い地震が起こった時、＜3つの質問＞質問1.最初に何をしますか 質問2.揺れがおさまったら、次に何をしますか 家内に火災や大けがの発生がなく、みんな無事でした。質問3.次に何をしますか」を思い出しましょう。

また、「地震がおきたときの行動について」一番大事なのは、ゆれている間は身を守る姿勢をとること。ゆれがおさまったら ①出口の確保、②火の元確認・・・衣川台ホームページに掲載されている「衣川台なまず通信 2026 年2月号の3ページ目」を参照ください。

最終問題 Q12 の正答率は 75%、自主防災部関係者では 67%でした。

最終問題です Q 12

大きな災害時に電話が通じなくなる。この時、別の場所の人と連絡を取る為の「災害伝言ダイヤル」の番号は「117」である。

○か？ ×か？



Q 12 “答” → ×

正解は「^{いない}171」です。普段は利用できません。毎月1日と15日が体験可能日です。事前に練習しておくといいでしょう。

暗証番号(4桁)はお互いに決めておいてね。



問題内容についても伺いました。「目新しさなし」が自主防災部関係者では 15%、一般参加者でも 7%の方がいらっしゃいました。このアンケート回収数は計 35 でしたが、参加賞品の残数から推測すると、約 70 人が防災クイズ大会に集まりました。

災害用伝言ダイヤル「171」は、毎月1日と 15 日が体験可能です。

ぜひ試してみてください。

以上

